

平成 29 年度 筑波大学 2 次試験前期日程 (数学問題)120 分

- 社会学類は ①, ② から 1 題選択, ③ 必答 (数 II・B), 及び他教科との選択
- 国際総合・障害科学類は, 数 II・B 選択の場合は ①, ② から 1 題選択, ③ 必答. 数 III 選択の場合は ④ ~ ⑥ から 2 題選択, 及び他教科との選択
- 教育・心理学類は ① ~ ③ 必答, ④ ~ ⑥ から 1 題選択
- 生物資源・生物・地球・数学・物理・化学・応用理工・工学システム・情報科学類は ① ~ ③ から 2 題選択, ④ ~ ⑥ 必答
- 情報メディア創生学類は ①, ② から 1 題選択, ③ ~ ⑥ 必答
- 知識情報・図書館学類は ② ~ ⑥, または ①, ③ ~ ⑥ から 2 題選択, 及び他教科との選択
- 社会工学類は ① ~ ③ から 1 題選択, ④ ~ ⑥ 必答
- 医学・医療学類は ① ~ ③ 必答, ④ ~ ⑥ から 2 題選択

①  $a$  を正の実数とする. 2 つの関数

$$y = \frac{1}{3}ax^2 - 2a^2x + \frac{7}{3}a^3, \quad y = -\frac{2}{3}ax^2 + 2a^2x - \frac{2}{3}a^3$$

のグラフは, 2 点 A, B で交わる. 但し, A の  $x$  座標は B の  $x$  座標より小さいとする. また, 2 点 A, B を結ぶ線分の垂直二等分線を  $l$  とする.

- (1) 2 点 A, B の座標を  $a$  を用いて表せ.
- (2) 直線  $l$  の方程式を  $a$  を用いて表せ.
- (3) 原点と直線  $l$  の距離  $d$  を  $a$  を用いて表せ. また,  $a > 0$  の範囲で  $d$  を最大にする  $a$  の値を求めよ.

②  $a, b, c$  を実数とし,  $\beta, m$  をそれぞれ  $0 < \beta < 1, m > 0$  を満たす実数とする. また, 関数  $f(x) = x^3 + ax^2 + bx + c$  は  $x = \beta, -\beta$  で極値をとり,  $f(-1) = f(\beta) = -m, f(1) = f(-\beta) = m$  を満たすとする.

- (1)  $a, b, c, \beta, m$  の値を求めよ.
- (2) 関数  $g(x) = x^3 + px^2 + qx + r$  は,  $-1 \leq x \leq 1$  に対して  $f(-1) \leq g(x) \leq f(1)$  を満たすとする.  $h(x) = f(x) - g(x)$  とおくと,  $h(-1), h(-\beta), h(\beta), h(1)$  それぞれと 0 との大きさを比較することにより,  $h(x)$  を求めよ.

**3** 数列  $\{a_n\}$  が

$$a_1 = 1, a_2 = 3, a_{n+2} = 3a_{n+1}^2 - 6a_{n+1}a_n + 3a_n^2 + a_{n+1} \quad (n = 1, 2, \dots)$$

を満たすとする. また,  $b_n = a_{n+1} - a_n$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) とおく. 以下の問いに答えよ.

- (1)  $b_n \geq 0$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) を示せ.
- (2)  $b_n$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) の一の位の数が 2 であることを数学的帰納法を用いて証明せよ.
- (3)  $a_{2017}$  の一の位の数を求めよ.

**4** 関数

$$f(x) = 2x^2 - 9x + 14 - \frac{9}{x} + \frac{2}{x^2} \quad (x > 0)$$

について以下の問いに答えよ.

- (1) 方程式  $f(x) = 0$  の解をすべて求めよ.
- (2) 関数  $f(x)$  のすべての極値を求めよ.
- (3) 曲線  $y = f(x)$  と  $x$  軸とで囲まれた部分の面積を求めよ.

**5**  $xy$  平面において,  $x$  座標と  $y$  座標がともに整数である点を格子点という. また, 実数  $a$  に対して,  $a$  以下の最大の整数を  $[a]$  で表す. 記号  $[ \ ]$  をガウス記号という. 以下の問いでは  $N$  は自然数とする.

- (1)  $n$  を  $0 \leq n \leq N$  を満たす整数とする. 点  $(n, 0)$  と点  $\left(n, N \sin\left(\frac{\pi n}{2N}\right)\right)$  を結ぶ線分上にある格子点の個数をガウス記号を用いて表せ.
- (2) 直線  $y = x$  と,  $x$  軸, および直線  $x = N$  で囲まれた領域 (境界を含む) にある格子点の個数を  $A(N)$  とおく. このとき  $A(N)$  を求めよ.
- (3) 曲線  $y = N \sin\left(\frac{\pi x}{2N}\right)$  ( $0 \leq x \leq N$ ) と,  $x$  軸, および直線  $x = N$  で囲まれた領域 (境界を含む) にある格子点の個数を  $B(N)$  とおく. (2) の  $A(N)$  に対して  $\lim_{N \rightarrow \infty} \frac{B(N)}{A(N)}$  を求めよ.

**6**  $0 < a < \frac{\pi}{2}$  とする. 複素数平面上において, 原点を中心とする半径 1 の円の上に異なる 5 点  $P_1(w_1)$ ,  $P_2(w_2)$ ,  $P_3(w_3)$ ,  $P_4(w_4)$ ,  $P_5(w_5)$  が反時計まわりに並んでおり, 次の 2 つの条件 (I), (II) を満たすとする.

(I)  $(\cos^2 a)(w_2 - w_1)^2 + (\sin^2 a)(w_5 - w_1)^2 = 0$  が成り立つ.

(II)  $\frac{w_3}{w_2}$  と  $-\frac{w_4}{w_2}$  は方程式  $z^2 - \sqrt{3}z + 1 = 0$  の解である.

また, 五角形  $P_1P_2P_3P_4P_5$  の面積を  $S$  とする. 以下の問いに答えよ.

(1) 五角形  $P_1P_2P_3P_4P_5$  の原点  $P_1$  における内角  $\angle P_5P_1P_2$  を求めよ.

(2)  $S$  を  $a$  を用いて表せ.

(3)  $R = |w_1 + w_2 + w_3 + w_4 + w_5|$  とする. このとき,  $R^2 + 2S$  は  $a$  の値によらないことを示せ.

## 解答例

□1 (1)  $y = \frac{1}{3}ax^2 - 2a^2x + \frac{7}{3}a^3$ ,  $y = -\frac{2}{3}ax^2 + 2a^2x - \frac{2}{3}a^3$  ( $a > 0$ ) を連立すると

$$\frac{1}{3}ax^2 - 2a^2x + \frac{7}{3}a^3 = -\frac{2}{3}ax^2 + 2a^2x - \frac{2}{3}a^3$$

整理すると  $ax^2 - 4a^2x + 3a^3 = 0$  ゆえに  $a(x-a)(x-3a) = 0$

条件より  $A\left(a, \frac{2}{3}a^3\right)$ ,  $B\left(3a, -\frac{2}{3}a^3\right)$

(2) AB の中点  $(2a, 0)$ , AB の傾きが  $-\frac{2}{3}a^2$  であるから,  $\ell$  は

$$y = \frac{3}{2a^2}(x - 2a) \quad \text{すなわち} \quad 3x - 2a^2y - 6a = 0$$

別解  $\ell$  上の点  $P(x, y)$  について,  $AP^2 = BP^2$  より

$$\begin{aligned} (x-a)^2 + \left(y - \frac{2}{3}a^3\right)^2 &= (x-3a)^2 + \left(y + \frac{2}{3}a^3\right)^2 \\ -2ax + a^2 - \frac{4}{3}a^3y + \frac{4}{9}a^6 &= -6ax + 9a^2 + \frac{4}{3}a^3y + \frac{4}{9}a^6 \\ 4ax - \frac{8}{3}a^3y - 8a^2 &= 0 \\ 3x - 2a^2y - 6a &= 0 \end{aligned}$$

(3) 原点  $O$  と直線  $\ell$  の距離  $d$  は,  $a > 0$  より

$$d = \frac{|-6a|}{\sqrt{3^2 + (-2a^2)^2}} = \frac{6a}{\sqrt{4a^4 + 9}}$$

相加平均・相乗平均の大小関係により

$$\frac{1}{d^2} = \frac{4a^4 + 9}{36a^2} = \frac{1}{36} \left(4a^2 + \frac{9}{a^2}\right) \geq \frac{1}{36} \cdot 2\sqrt{4a^2 \cdot \frac{9}{a^2}} = \frac{1}{3}$$

したがって  $d \leq \sqrt{3}$  等号が成立するとき

$$4a^2 = \frac{9}{a^2} \quad \text{すなわち} \quad a = \sqrt{\frac{3}{2}}$$

- 2 (1)  $f(x)$  は  $x = \beta, -\beta$  で極値をとるから、最高次の係数に注意して

$$f'(x) = 3(x + \beta)(x - \beta) = 3x^2 - 3\beta^2$$

$f(x)$  の定数項が  $c$  であるから  $f(x) = x^3 - 3\beta^2x + c \dots (*)$

$(-1) = f(\beta) = -m, f(1) = f(-\beta) = m$  より

$$-1 + 3\beta^2 + c = -m \dots \textcircled{1}$$

$$-2\beta^3 + c = -m \dots \textcircled{2}$$

$$1 - 3\beta^2 + c = m \dots \textcircled{3}$$

$$2\beta^3 + c = m \dots \textcircled{4}$$

②, ④ より  $c = 0, m = 2\beta^3 \dots \textcircled{5}$  これを ③ に代入すると

$$1 - 3\beta^2 = 2\beta^3 \quad \text{ゆえに} \quad (\beta + 1)^2(2\beta - 1) = 0$$

$0 < \beta < 1$  であるから  $\beta = \frac{1}{2}$  これを ⑤ に代入して  $m = \frac{1}{4}$

$c = 0, \beta = \frac{1}{2}, m = \frac{1}{4}$  は ① を満たす. (\*) は  $f(x) = x^3 - \frac{3}{4}x$

よって  $\mathbf{a = 0, b = -\frac{3}{4}, c = 0, \beta = \frac{1}{2}, m = \frac{1}{4}}$

- (2)  $f(-1) \leq g(x) \leq f(1)$  より  $f(x) - f(1) \leq f(x) - g(x) \leq f(x) - f(-1)$

$$f(x) - f(1) \leq h(x) \leq f(x) - f(-1)$$

$x = -1, -\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, 1$  を代入すると、条件により

$$h(-1) \leq 0, \quad 0 \leq h\left(-\frac{1}{2}\right), \quad h\left(\frac{1}{2}\right) \leq 0, \quad 0 \leq h(1)$$

$h(x)$  は高々2次の整式であるから、 $h(x) = sx^2 + tx + u$  とおくと

$$s - t + u \leq 0, \quad \frac{1}{4}s - \frac{1}{2}t + u \geq 0, \quad \frac{1}{4}s + \frac{1}{2}t + u \leq 0, \quad s + t + u \geq 0$$

上の第1式と第4式、第2式と第3式から

$$-t \leq s + u \leq t, \quad \frac{1}{2}t \leq \frac{1}{4}s + u \leq -\frac{1}{2}t$$

上の2式から  $t = 0$  ゆえに  $s + u = 0, \frac{1}{4}s + u = 0$

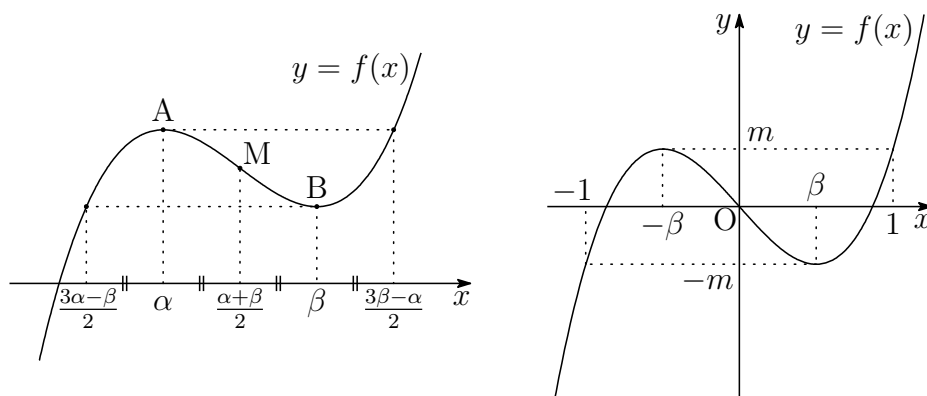
これを解いて  $s = u = 0$  よって  $\mathbf{h(x) = 0}$

補足 一般に, 3次関数  $y = f(x)$  が2点  $A(\alpha, f(\alpha)), B(\beta, f(\beta))$  で極値をとるとき (左図),  $AB$  の中点  $M$  は  $y = f(x)$  上にあり,  $M\left(\frac{\alpha + \beta}{2}, f\left(\frac{\alpha + \beta}{2}\right)\right)$ .

$M$ (変曲点) に関して曲線  $y = f(x)$  は対称で, 次が成り立つ.

$$f(\alpha) = f\left(\frac{3\beta - \alpha}{2}\right), \quad f(\beta) = f\left(\frac{3\alpha - \beta}{2}\right)$$

このとき, 数列  $\frac{3\alpha - \beta}{2}, \alpha, \frac{\alpha + \beta}{2}, \beta, \frac{3\beta - \alpha}{2}$  は等差数列をなす.



本題の  $y = f(x)$  では (右図), 2点  $(-1, -m), (1, m)$  で極値をとり, その中点  $O$  に関して  $y = f(x)$  は対称であるから,  $f(x)$  は奇関数である.  $\beta$  は  $0$  と  $1$  の中央であるから,  $\beta = \frac{1}{2}$  であり, 最高次の係数に注意すると

$$f'(x) = 3\left(x + \frac{1}{2}\right)\left(x - \frac{1}{2}\right) \quad \text{ゆえに} \quad f(x) = x^3 - \frac{3}{4}x, \quad m = f(1) = \frac{1}{4}$$

発展  $n$  次多項式  $f(x)$  の  $x^n$  の係数が  $A$  であるとき, 次式が成立する<sup>1</sup>.

$$f(x) = f(a) + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{f^{(k)}(a)}{k!} (x-a)^k + A(x-a)^n$$

3次多項式  $f(x)$  の  $x^3$  の係数が  $A$ ,  $f(x)$  が  $x = \alpha, \beta$  で極値をとるとき,  $f'(x) = 3A(x-\alpha)(x-\beta)$ ,  $f''(x) = 3A(2x-\alpha-\beta)$  より,  $x = \alpha$  を極として展開すると

$$\begin{aligned} f(x) &= f(\alpha) + f'(\alpha)(x-\alpha) + \frac{1}{2}f''(\alpha)(x-\alpha)^2 + A(x-\alpha)^3 \\ &= f(\alpha) + \frac{3}{2}A(\alpha-\beta)(x-\alpha)^2 + A(x-\alpha)^3 \end{aligned}$$

よって,  $f\left(\frac{3\beta - \alpha}{2}\right) = f(\alpha)$ . また,  $x = \beta$  を極とすると,  $f\left(\frac{3\alpha - \beta}{2}\right) = f(\beta)$ .

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/N/TKdai/TKdai\\_2020.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/N/TKdai/TKdai_2020.pdf) (p.15 を参照)

**3** (1)  $a_{n+2} = 3a_{n+1}^2 - 6a_{n+1}a_n + 3a_n^2 + a_{n+1}$  より ( $n = 1, 2, \dots$ )

$$a_{n+2} - a_{n+1} = 3(a_{n+1} - a_n)^2 \quad \text{ゆえに} \quad b_{n+1} = 3b_n^2 \geq 0$$

よって  $b_n \geq 0$  ( $n = 1, 2, \dots$ )

(2) (\*)  $b_n \equiv 2 \pmod{10}$

[1]  $b_1 = a_2 - a_1 = 3 - 1 = 2$  より,  $n = 1$  のとき, (\*) は成立する.

[2]  $n = k$  のとき, (\*) が成立すると仮定すると

$$b_{k+1} = 3b_k^2 \equiv 3 \cdot 2^2 \equiv 2 \pmod{10}$$

したがって,  $n = k + 1$  のときも, (\*) は成立する.

[1], [2] より, すべての自然数  $n$  について, (\*) が成立する.

(3)  $b_n = a_{n+1} - a_n$  より,  $n > 1$  のとき

$$\sum_{k=1}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) = \sum_{k=1}^{n-1} b_k \quad \text{ゆえに} \quad a_n - a_1 \equiv \sum_{k=1}^{n-1} 2 \pmod{10}$$

したがって  $a_n \equiv 2(n-1) + 1 = 2n - 1 \pmod{10}$

ゆえに  $a_{2017} \equiv 2 \cdot 2017 - 1 \equiv 3 \pmod{10}$  よって 一の位の数 **3**

**4** (1)  $f(x) = 2x^2 - 9x + 14 - \frac{9}{x} + \frac{2}{x^2}$  ( $x > 0$ ) について,  $t = x + \frac{1}{x}$  とおくと

$$\begin{aligned} f(x) &= 2 \left( x^2 + 2 + \frac{1}{x^2} \right) - 9 \left( x + \frac{1}{x} \right) + 10 \\ &= 2t^2 - 9t + 10 = (t-2)(2t-5) \quad \dots (*) \end{aligned}$$

$t = 2$  より  $x + \frac{1}{x} = 2$  ゆえに  $(x-1)^2 = 0$  すなわち  $x = 1$

$t = \frac{5}{2}$  より  $x + \frac{1}{x} = \frac{5}{2}$  ゆえに  $(x-2)(2x-1) = 0$  すなわち  $x = \frac{1}{2}, 2$

よって, 求める解は  $x = \frac{1}{2}, 1, 2$

(2)  $f(x) = 2t^2 - 9t + 10$ ,  $t = x + \frac{1}{x}$  より

$$\begin{aligned} f'(x) &= (4t - 9) \frac{dt}{dx} = \left(4x + \frac{4}{x} - 9\right) \left(1 - \frac{1}{x^2}\right) \\ &= \frac{1}{x^3} (x+1)(x-1)(4x^2 - 9x + 4) \end{aligned}$$

$x > 0$  に注意して,  $4x^2 - 9x + 4 = 0$  を解くと  $x = \frac{9 \pm \sqrt{17}}{8}$

$\alpha = \frac{9 - \sqrt{17}}{8}$ ,  $\beta = \frac{9 + \sqrt{17}}{8}$  とおくと,  $x = \alpha, \beta$  のとき,  $t = \frac{9}{4}$

$x = 1$  のとき,  $t = 2$ .  $g(t) = (t-2)(2t-5)$  とおくと, (\*) より

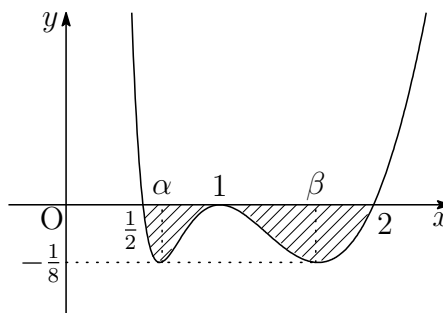
$$\begin{aligned} f(\alpha) = f(\beta) &= g\left(\frac{9}{4}\right) = \left(\frac{9}{4} - 2\right) \left(2 \cdot \frac{9}{4} - 5\right) = -\frac{1}{8}, \\ f(1) &= g(2) = 0 \end{aligned}$$

$x$	(0)	...	$\alpha$	...	1	...	$\beta$	...
$f'(x)$		-	0	+	0	-	0	+
$f(x)$		$\searrow$	$-\frac{1}{8}$	$\nearrow$	0	$\searrow$	$-\frac{1}{8}$	$\nearrow$

よって  $x = \frac{9 \pm \sqrt{17}}{2}$  のとき極小値  $-\frac{1}{8}$ ,  $x = 1$  のとき極大値 0

(3) 求める面積を  $S$  とすると, (1), (2) の結果から

$$\begin{aligned} S &= - \int_{\frac{1}{2}}^2 \left(2x^2 - 9x + 14 - \frac{9}{x} + \frac{2}{x^2}\right) dx \\ &= \left[ -\frac{2}{3}x^3 + \frac{9}{2}x^2 - 14x + 9 \log x + \frac{2}{x} \right]_{\frac{1}{2}}^2 \\ &= 18 \log 2 - \frac{99}{8} \end{aligned}$$





5 (1)  $0 \leq n \leq N$  において,  $N \sin\left(\frac{\pi n}{2N}\right) \geq 0$  であるから

$$\left[ N \sin\left(\frac{\pi n}{2N}\right) \right] + 1$$

$$(2) \sum_{k=0}^N (k+1) = \frac{1}{2}(N+1)(1+N+1) = \frac{1}{2}(N+1)(N+2)$$

(3) (1) の結果から

$$\begin{aligned} B(N) &= \sum_{n=0}^N \left( \left[ N \sin\left(\frac{\pi n}{2N}\right) \right] + 1 \right) = \sum_{n=0}^N \left[ N \sin\left(\frac{\pi n}{2N}\right) \right] + N + 1 \\ &\leq \sum_{n=0}^N N \sin\frac{\pi n}{2N} + N + 1, \\ B(N) &= \sum_{n=0}^N \left( \left[ N \sin\left(\frac{\pi n}{2N}\right) \right] + 1 \right) > \sum_{n=0}^N N \sin\frac{\pi n}{2N} \end{aligned}$$

$$A(N) = \frac{1}{2}(N+1)(N+2) \text{ より}$$

$$\frac{2N}{(N+1)(N+2)} \sum_{n=0}^N \sin\frac{\pi n}{2N} < \frac{B(N)}{A(N)} \leq \frac{2N}{(N+1)(N+2)} \sum_{n=0}^N \sin\frac{\pi n}{2N} + \frac{2}{N+2}$$

このとき

$$\begin{aligned} \lim_{N \rightarrow \infty} \frac{2N}{(N+1)(N+2)} \sum_{n=0}^N \sin\frac{\pi n}{2N} &= \lim_{N \rightarrow \infty} \frac{2N^2}{(N+1)(N+2)} \cdot \frac{1}{N} \sum_{n=0}^N \sin\frac{\pi n}{2N} \\ &= 2 \int_0^1 \sin\frac{\pi x}{2} dx = 2 \left[ -\frac{2}{\pi} \cos\frac{\pi x}{2} \right]_0^1 = \frac{4}{\pi}, \\ \lim_{N \rightarrow \infty} \frac{2}{N+2} &= 0 \end{aligned}$$

よって, はさみうちの原理により  $\lim_{N \rightarrow \infty} \frac{B(N)}{A(N)} = \frac{4}{\pi}$

6 (1)  $(\cos^2 a)(w_2 - w_1)^2 + (\sin^2 a)(w_5 - w_1)^2 = 0$  より

$$\frac{(w_2 - w_1)^2}{(w_5 - w_1)^2} = -\tan^2 a \quad \text{ゆえに} \quad \frac{w_2 - w_1}{w_5 - w_1} = \pm i \tan a \quad \dots (*)$$

$$\frac{w_2 - w_1}{w_5 - w_1} \text{ は純虚数であるから} \quad \angle P_5 P_1 P_2 = \frac{\pi}{2}$$

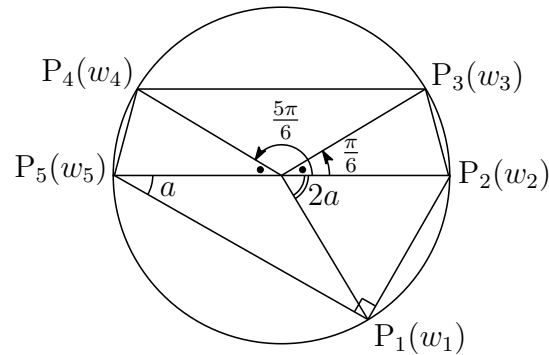
$$(2) z^2 - \sqrt{3}z + 1 = 0 \text{ を解くと } z = \frac{\sqrt{3} \pm i}{2}$$

条件により,  $\arg \frac{w_3}{w_2} < \arg \frac{w_5}{w_2}$  であるから

$$\frac{w_3}{w_2} = \frac{\sqrt{3} + i}{2} = \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6}$$

$$\frac{w_5}{w_2} = -\frac{\sqrt{3} - i}{2} = \cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6}$$

$$(1) \text{ の結果および } (*) \text{ より } \frac{|w_2 - w_1|}{|w_5 - w_1|} = \tan a \text{ ゆえに } \angle P_1 P_5 P_2 = a$$



上の図から,  $S$  は

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot 1^2 \left( \sin \frac{\pi}{6} + \sin \frac{2\pi}{3} + \sin \frac{\pi}{6} + \sin(\pi - 2a) + \sin 2a \right) \\ &= \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{4} + \sin 2a \end{aligned}$$

(3)  $w_2 + w_5 = 0$  であるから

$$\begin{aligned} R &= |w_1 + w_3 + w_4| = |w_2| \left| \frac{w_1}{w_2} + \frac{w_3}{w_2} + \frac{w_4}{w_2} \right| \\ &= 1 \left| \cos(-2a) + i \sin(-2a) + \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} + \cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6} \right| \\ &= |\cos 2a + i(1 - \sin 2a)| \end{aligned}$$

$$\text{ゆえに } R^2 = \cos^2 2a + (1 - \sin 2a)^2 = 2 - 2 \sin 2a$$

$$\text{上式および (2) の結果から } R^2 + 2S = 3 + \frac{\sqrt{3}}{2}$$

よって,  $R^2 + 2S$  は,  $a$  の値によらない定数である.